

2007年11月5日
14:50

西部弥生文化の展開

◎人口の増加と社会の複雑化の背景

* 北部九州では前期から中心が明確化している。

普通は前期というのは等質化という感じが目立っていたんだけどね。

また、北部九州では中心人物の存在の顕在化が見られる。これも南関東や近畿ではなかった現象である。福岡平野には弥生時代の遺跡がやたらとある。大きな遺跡が連なったような状態で存在することが明らかになっている。そこでは中心人物をおぼしき人の墓が各地で存在している。

どうしてこのような現象が見られるのか…大陸に近い。青銅器・原材料の入手がしやすい環境にある。元々どの地域社会にもリーダーとなる人の存在はしていたし、それを示す証拠もある。ただし、それが個人として周りの人と隔絶した様相のお墓・住居のあり方をするのはなかった。しかし、九州北部は環境上の要件もあり、青銅器がリーダーの力量を象徴的に示す役割を果たしたのだろうと考えられる。

値域社会のリーダーの墓は、中期後半に最も発達。

値域社会のリーダーは血のつながりは関係なく、あくまでも集団をまとめる個人の能力によって決まっているのではないか。そういうことが最近の研究で明らかにされつつある。まだ確定はできないが。そのように考えると、主張の力量を象徴する青銅器は死ぬと、継承する必要がないので、お墓に埋められるのであろう。

ただし後期になると、中心人物が目立たなくなる。一方で、大型銅矛を用いた祭祀が発達。→近畿地方と同じ現象。

支配・被支配の関係が明確ではない。

依然、平等的・互恵的な関係が社会をまとめる力になっていた。

これまでの説明の力点が値域社会の中の安定だとか地域謝意哀感の関係の安定とか、平和的な側面からの見放してきた。しかし、そんな単純なものではない。

* 集団同士の争いの発生。

大規模な集落は、集落間の相互依存関係と経済不均衡の拡大との矛盾が集積する場。
→バランスが崩れると集落間、地域社会観の軋轢が生じる。

・時にそうした軋轢が集団同士の争いに発展した。

防御施設を備えや環濠集落の発達。しかし、西部弥生文化は全部が全部環濠集落になったわけではない。

石制・青銅製・鉄製の武器の発達

弥生時代は、日本列島の人類の歴史の中で、武器が出現した最初の時代である。

→力を持つものと持たないものとの差が生じやすい。社会をまとめる中心人物の役割の

拡大に繋がる。